



◀コペンハーゲン近郊の総合病院。かかりつけ医の紹介が緊急の場合のみ診療可



**デンマーク王国 DATA**

人口560万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

当会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度が高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

LETTER FROM COPENHAGEN  
**コペンハーゲン通信** 3  
PART IV

# デンマークの医療事情

冒頭から私事で恐縮ですが、先日息子が幼稚園で転倒して頭を強く打ち、出血してしまったため、近くの公立病院の救急病棟に連れて行くことにしました。救急の待合室では、すでに10人以上の患者さんが待っていました。骨を折ったと思われる人、顔に大きなケガを負っている人、泣きじゃくっている子どもなどさまざまです。到着後すぐに受付の女性から、転倒後に脳振とうや嘔吐があったかどうか質問され、特になかったことを伝えると、優先順位が一気に落ちてしまったのか、その後1時間半以上も待たされました。結局、患部に簡単な消毒処置を施し、ばんそうこうを貼って終了です。ものの5分です。デンマーク人の知人に聞いたら、「1時間半ならいい方。自分の場合、指の骨を折った息子を診てもらうのに、3時間以上かかった。しかも救急でね」と言われました。

デンマークの公的医療は無料です。しかし現在の医療システムでは、命にかかわる事故や病気に遭った患者は、優先的にケアされるのとは対照的に、命を落とす心配のない患者は、長く待たされた上に大した処置もしてくれないという傾向があるようです。特に、風邪をひいたくらいでは、薬も出してくれないといいます。ある日本人は、「寝ることが一番の薬」と言われ、帰らされたそうです。至極もっともなアドバイスかもしれませんが、患者はその言葉を聞くために長時間待っていたのではないと思います(そのためかもしれませんが、最近では、有料ですがあまり待たされることのない私立病院も設立されています)。

このような背景により、病院は多くのデンマーク人にとって「よほどのことがないと行かない場所」になっているようです。実はこういった国民の態度は、医療財政を担う国からしてみれば、より都合の良い話になります。

半分愚痴っぽいことを書いてしまいましたが、感心させ



**木下 潤一**

在デンマーク日本大使館一等書記官  
(経済同友会事務局より出向中)

られることもあります。すでに述べた通り、命にかかわるケースでは、国は全力で支援します。例えば、患者の命を救うために海外で手術を受ける必要があると判断された場合は、海外への渡航費、手術費、入院費など、すべて国が負担します。また、致命的と考えられる事故や病状が発生した場合は、救急車もしくは救急ヘリコプターが15分以内に患者の元に到着するシステムになっています。

デンマークの公的医療は、国がすべて負担するためコストの全体像が分かります。そうすると、予算内で優先順位に基づいてやりくりをしようということになります。そのやりくりの方法として、軽度の患者層に対しては、長い待ち時間(大きな時間投資)と簡易な診療(低いリターン)により来院インセンティブを調節することで、診察数が抑制される仕組みになっているように思えます。ちょっとしたことでも、すぐに医師に診てもらおうとする傾向がある日本とは対称的な気がします。

いずれにしても、かわいそうなのは、命に別条はないけれども痛いケガを負った場合でしょうか。指の骨を折ったのに3時間待たされた知人の息子さん、つらかったと思います。



▲総合病院で救急の場合は、この看板を目印に入る